



Good News for Japan **とぎのこえ**

深い溝からの救いのために

ケネス・メイナ



9月22日は、日本における救世軍121周年記念日です
(写真は、1904年に英国で開かれた救世軍の国際大会に参加した日本の代表者たち)

ある牧場主の物語を紹介しましょう。
牧場主は、長年一頭の馬を大変大事にして飼っていました。ところが、ある日その年老いた馬が深い排水溝に落ちてしまいました。彼はすぐさま引き上げようと手を尽くしましたが、う

まくいきません。近所の人々を呼び集めて試みた様々な努力も、ついにむなしく終わりました。
牧場主は、悲しみの声を上げ、愛馬を生きたままそこに埋葬するしかない、と決断しました。そして、集まっていた人々に、その深

い溝に土を投げ入れるよう頼みました。何杯ものバケツに入った土が、次々と溝に入れられました。
その馬は、頭から土を浴びるたびに体を震わせて払い落とししました。何時間過ぎたでしょうか、馬が払い落とし続けた土は、馬の足元に積もっていき、なんと自力で穴から出られるほどの高さに達したのでした。
私たちの人生にも、どんなに自分の知恵を尽くしても這い出せないような深い溝に陥っていると感じる状況があります。何度抜け出そうと試みても失敗し、諦めてしまうことが。肉体的にも精神的にも経験する深い溝が、私たちを失望させます。人間関係の破たん、実行されなかった約束、健康状態の悪化……そのどれもが、あたかも自分が生きのまま埋葬されつつあるように感じさせるのです。

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

ところで、皆さんの中には、数年前にチリの鉱山で起きた落盤事故を覚えておられる方もあるでしょう。何日もの間、三十三人の作業員が地下に閉じ込められました。作業員の家族の多くが、愛する人の救出を諦めました。が、坑内の現場監督は、生還のためにそこで行えること―体操、家族について語り合うこと、仕事の負担を分かち合うこと―を毎日させ続けました。彼は、部下に励ましの言葉をかけ続け、祈り続けました。やがて、多くの人々の懸命な労苦によつて新しい立坑が掘られ、彼らは救い出されたのでした。

日々すべての人々に対する愛を実践し、心を寄せることを通して、人々が深い溝から出てくるための助けをする、それが、救世軍の使命です。人々の必要に応えたい、と私たちは、日ごとにイエス・キリストからの励ましを受けて働いています。キリストと共にいてくださるなら、その大きな祝福をいただきつつ生きる事ができるからです。イエス様の愛を基盤としているからこそ、救世軍の施設にいる子どもたちは、愛と尊厳のうちに育てられ、施設や病院にいる高齢の方は、尊敬と慈しみのうちにケアを受けているのです。日本における救世軍の働きは、今年百二十一年を迎えました。長年にわたり、多くのご支援をいただいております。今後とも、困難な状況に苦しむ人々を救うため、ご協力いただければ幸いです。それは、困窮や孤独の中にいる何千もの人々の人生に影響を及ぼすからです。最後に、あなたご自身の人生も、イエス・キリストと共に生きる時に与えられるお恵みで満たされますよう、お祈り申し上げます。
「わたしの神は、御自分の栄光の富に依じて、キリスト・イエスによつて、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます。」(フィリピの信徒への手紙4章19節)
(救世軍士官「伝道者」・司令官)

信仰の入り口をウロウロ

私は、クリスチャンの手本となるような両親の下に生まれ、母のお腹にいる時から教会に通っていました。それこそ聖書の言葉にある、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」(ルカによる福音書 1 章 28 節)

音がピツタリ当てはまるような環境で育ちました。しか

〈信仰の体験談〉

困難の中にある女性や子どもがいる限り……

し、あまりに教会が身近だったため、洗礼を受けたものの、習慣によつて教会につながっているような時期が長く続きました。

大学に進学するために実家を離れ、ついでに教会からも徐々に離れていきました。しかし、基本的に臆病な性格なので、完全に教会を離れることはできず、長いこと聖書を片手に信仰の入り口をウロウロとしていました。

海外勤務を経験して

大学卒業後、国内最大規模の警備会社に就職し、それなりに充実した日々を送っていました。その生活が続けることに漠然とした疑問が芽生えてきました。

それは、二〇〇二年の初め、最初の海外勤務地であるホンジュラスから帰国して間もなくの頃でした。そして、さらにその数年後の二〇〇

五年の夏、あるプロジェクトの責任者としてロシアのモスクワに駐在していた私は、仕事や人間関係の行き詰まりを通し、改めて自分の仕事や残りの人生について考える機会を与えられ、自身の信仰と向き合わされていきました。

仕事について考える中で思ったことは、「今後も海外で仕事をし、もっと広い世界を見たい」ということでした。ただ、その動機が

不純ではないか、つまり、海外勤務ゆえの「恵まれた収入」や「様々なサービスがついた快適な住居」、「海外駐在という優越感」といったことが動機ではないかと自分自身確認する必要があると感じました。さらに、海外で働くのであれば、美しい景色や魅力的な文化などだけに目を向けるのではなく、開発途上国や紛争国などにおける痛ましい現実をも、正面から受け止める覚悟が必要である、と感じるようになりました。

「人身取引」との出会い

そのように自分の心を整理する中で、私の目を向けさせられたのは、子どもや女性に対する暴力や性的搾取でした。紛争下の性暴力や商業的な性的搾取は、その惨状があまりに痛ましいため、できることなら関わり合いになるのを避けたかったのですが、だからこそ向き合う必要を感じさせられたのです。

それらをいろいろと調べた中で「人身取引」という言葉に行き着きました。当時、人々の安全と財産、そして国益を守ることが私の



ホンジュラスで日本の文化を紹介する

使命感であり、そこにやりがいを感じながら生きていました。しかし、性暴力や性的搾取の被害に遭う人々は、自分を守る術をもっていないことを知ると同時に、営利企業で働いている以上、お金を出せる人や組織しか守れないことにも改めて気づかされました。

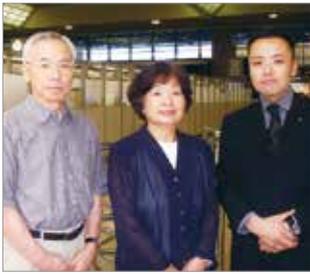
悩みの日々

モスクワから帰国後、日本国内で人身取引問題に関わる団体を見つけました。そこで、当面は国内で現在の仕事を続けつつ、この団体の活動を通して人身取引の現状を知り、自分に何ができるかを考え、数年後にまた海外を目指そう、と考えました。

ところが、東京に戻ってわずか四カ月後、長期出張で中国の北京へ飛ぶことに



NPO 法人
人身取引被害者サポートセンター
ライトハウス 坂本 新



モスクワ赴任時、成田空港で両親と

なつたのです。これまで、二年間のホンジュラス駐在や、潜在的な脅威度の高い南米諸国への警備に関する調査出張、二年七カ月のモスクワ駐在、外務省やJICAの営業窓口等の経験を重ねた私は、社内で海外におけるセキュリティ業務の専門員と目されるようになっていました。

なく、自分にできることが本当にあるのか、生活に必要な経済力を保つていけるのか、親を悲しませることにならないか、といった、いくつもの大きな不安がありました。

人生の転機

反面、経済的に充実していても、この世を去る時に持つていけるものは何もなく、むしろ、このままでは「良い人生だった」と思えない予感がありました。大企業で定年まで勤めれば、いわゆる「勝ち組」かもしれないですが、私の尺度はそこにはありません。へやろうと思えばやれたはずなのに踏み出せなかった。神様から預かった価値あるものを永久に地中に埋めたまま、この世の時を終えてしまうのではないかと、しかし行動を起こすにはもう遅すぎるとも恐ろしく思えました。

私に計画されている道は何か、どこに向かって進んだらいいのか、そもそもそんな計画が本当にあるのか、この漠然とした違和感は何か。「もし私の思い違いであるならば今の道を全力で進むよう導いてください。しかし、本当に計画があるのなら、私が臆病さや不安のためにその道をあきらめることがないよう、強く導いてください」と祈る日でした。ここに至って、最初に疑問を感じた時から約十年が経っていました。

北京から帰国後、ここで働く時間はもう長くはないかもしれない、と感じ始めていました。そして、聖書の箴言三章二七節

「あなたの手に善をなす力があるならば、これをなすべき人になすことをさし控えてはならない」(口語訳聖書)

の言葉とともに、私の手に善をなす力があるかどうかはさておき、世界が求めていることと、私自身の思いが重なる場所を求めて、道を探ることが始まりました。

その中で、開発途上国の子どもたちを支援している国際NGOの求人を知り、祈った上で応募しました。その結果、道が開かれたので、二十年勤めた企業を退職し、そこで働き始めました。しかし私の能力不足に加え、そこにいることへの違和感も覚え、一年の契約期間をもって退職しました。

このことは、おそらく社会人となって一番大きな挫折でした。関わりたかった仕事に就いたはずなのに役に立たない、自分の思いだけではどうにもならない、祈った上で行動した結果であつたのに、なぜ、という苦い思いがありました。旧職場のある地下鉄駅を通る度、(自分は、人生で最大の過ちを犯したのではないかと)、(今ならまだ戻れるだろうか)、(でも戻ったところで本当の解決にはならない)などと考える日々でした。この苦く、つらい思いさえも自分に用意された計画の一部、と頭では思いつつ、拭い切れない大きな不安が続きました。

今、私は「人身取引被害者サポートセンター ライトハウス」というNPO法人で働いています。ライトハウスは、日本国内において、国籍や性別を問わず、自らの意に反して性産業に従事させられている人々への支援や、この問題の予防と啓発をおこなっています。性暴力や性的搾取の被害に苦しみ、困難と不安を抱える人々のために働ける場所に、私の想定外の道を通じてようやく辿り着くことができました。これまでの歩みが用いられ、少しでも彼らの助けになることを祈っています。

日本の、性的搾取を目的とした人身取引被害者が、最後に辿り着く受け入れ大国であり、そのこと自体が深刻な問題であると同時に、被害者は外国人だけでなく、日本人も多く存在しています。具体的な支援活動としては、誰にも相談できないような、アダルトビデオへの出演強要、風俗店やデリバリーヘルスなどでの売春の強要、援助交際や未成年者を対象にした児童買春等の被害者(被害者は女性のみならず、男性も存在します)から、(日本イエス・キリスト教団黒磯教会所属)



ライトハウスで講演活動を紹介する

「現代の奴隷制」と言われる重大な人権侵害であり、性的搾取、強制労働、臓器摘出等を目的とした犯罪です。

私の近くの救世軍を紹介してください。
キリスト教についてもっと知りたいです。
「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご住所
ご氏名

この部分を封書か葉書に貼り、裏面に下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp

救世軍 感謝祭募金

各地から収穫の便りが届き、実りの秋を迎えました。救世軍では、この時期、豊かな実りを与えてくださる神様の愛に感謝しつつ、「救世軍感謝祭募金」をおこないます。救世軍の活動を通して、様々な人々のニーズに応えるために、信徒自らが献金するとともに、地域の商店や事業所、家庭を訪問して、募金をお願いしております。

また、下記の最寄りの小隊、施設等で直接お預かりすることもできます。皆様のご協力をお願いいたします。

2015 年～ 2016 年前半 募金結果報告

2015 年	
克己週間 (3～4月)	16,574,065 円
感謝祭 (9月)	17,484,081 円
社会鍋 (12月)	20,096,238 円
2016 年	
克己週間 (7月29日現在)	15,903,520 円

皆様のご協力で心から感謝いたします

創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。一八六五年、東ロンドンの貧しい人々に神の愛を届けよう、と物心両面からの救いを目指し、働きを始めました。そして、人々の様々なニーズに迅速に^{じきそく}応えるために、軍隊流の組織をとりました。

伝道者や信徒は制服を着用し、救世軍に属するクリスチャンであることを表明します。そして、礼拝を守るとともに、自分でできる奉仕―病院や施設でのボランティア、街頭生活者への給食や日用品配布、災害被災者支援など―をおこなっています。また、創立時より

救世軍とは

プロテスタントのキリスト教会で、世界百二十七の国と地域で福音を伝えています。

創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。一八六五年、東ロンドンの貧しい人々に神の愛を届けよう、と物心両面からの救いを目指し、働きを始めました。そして、人々の様々なニーズに迅速に^{じきそく}応えるために、軍隊流の組織をとりました。

伝道者や信徒は制服を着用し、救世軍に属するクリスチャンであることを表明します。そして、礼拝を守るとともに、自分でできる奉仕―病院や施設でのボランティア、街頭生活者への給食や日用品配布、災害被災者支援など―をおこなっています。また、創立時より

2016 救世軍全国大会

10月22日(主)、23日(日) 日本教育会館ツ橋ホール

公開集会―22日午後2時 大会聖別会―23日午前10時

入場料 無料

災や二〇一六年の熊本大地震などの被災者支援も、継続されています。この春には、宮城県女川町に、救世軍の事務所を開設し、人々に安らぎの場を提供しつつ、地域の NPO や団体の働きを支援しています。

救世軍がおこなう様々な活動のために、毎年、克己週間(三月、四月)、感謝祭(九月)、社会鍋(十二月、随時)などの募金をおこない、広く協力を呼びかけています。



熊本市益城町でのコーヒーサービス

全国の救世軍小隊 (教会にあたる) 社会福祉施設

- ### 北海道連隊 (地区)
- 遠軽小隊 釧路小隊 帯広小隊 札幌小隊 函館小隊
- ### 関東東北連隊 (地区)
- 仙台小隊 浪江小隊 (現在休止中) 若松小隊 新潟小隊 前橋小隊 高崎小隊 桐生小隊 佐野小隊 熊谷小隊
- ### 東京東海道連隊 (地区)
- 川口小隊 清瀬小隊 江東小隊 西新井小隊 上野小隊 神田小隊 京橋小隊 月島小隊 麻布小隊 渋谷小隊 杉並小隊 大森小隊 横浜小隊 静清小隊 浜松小隊 名古屋小隊
- ### 西日本連隊 (地区)
- 京都小隊 天満小隊 西成小隊 泉尾小隊 神戸小隊 岡山小隊 福山小隊 呉小隊 広島小隊 高松小隊 高知小隊 八幡小隊 福岡小隊

- ### 保育所
- 北海道 桑園保育所 菊水上町保育園 札幌市しせいかん保育園
 - 栃木県 佐野保育園
 - 広島県 呉保育所
- ### 児童養護施設
- 東京都 機恵子寮 世光寮
 - 大阪府 希望館
 - 広島県 愛光園 豊浜学寮
- ### 婦人保護施設
- 東京都 婦人寮 新生寮
- ### 宿泊施設 (男子)
- 東京都 新光館
- ### 特別養護老人ホーム
- 東京都 恵泉ホーム 恵みの家(ユニットケア型)

- ### ケアハウス
- 東京都 いずみ [恵泉ホーム併設] (併設: ホームヘルパーステーション いずみ)
- ### 老人保健施設
- 東京都 プース記念老人保健施設 グレイス (併設: 杉並区地域包括支援センター「ケア24 和田」、プース記念ケアマネージメントセンター 和田、プース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ)
- ### アルコール依存症者支援施設
- 東京都 自省館(救護施設) 男子社会奉仕センター
- バザー場……東京都杉並区和田 2-21-2 オープン 毎週土曜 9～14 時 Tel 03-5860-2992
 - 江東出張所……東京都墨田区太平 4-11-3 オープン 毎週土曜 10～15 時 Tel 03-6261-5704

病院

— 両病院とも、(財)日本医療機能評価機構認定病院です 清瀬病院は、病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)認定も取得

- 救世軍プース記念病院 (ホスピス併設) 東京都杉並区和田 1-40-5 Tel 03-3381-7236
- 救世軍清瀬病院 (ホスピス併設) 東京都清瀬市竹丘 1-17-9 Tel 042-491-1411

発行日 毎月一日・十五日

定価 一日号一部四〇円(〒六〇) 十五日号一部六〇円(〒六〇) クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(〒七〇) 一年分二二六〇円(送料七五〇円) 振替・〇〇一八〇五五四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 ケネス・メイナ 編集人 齋藤 恵子 〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営 図書印刷株式会社

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)